

○ 教科に関する調査の状況

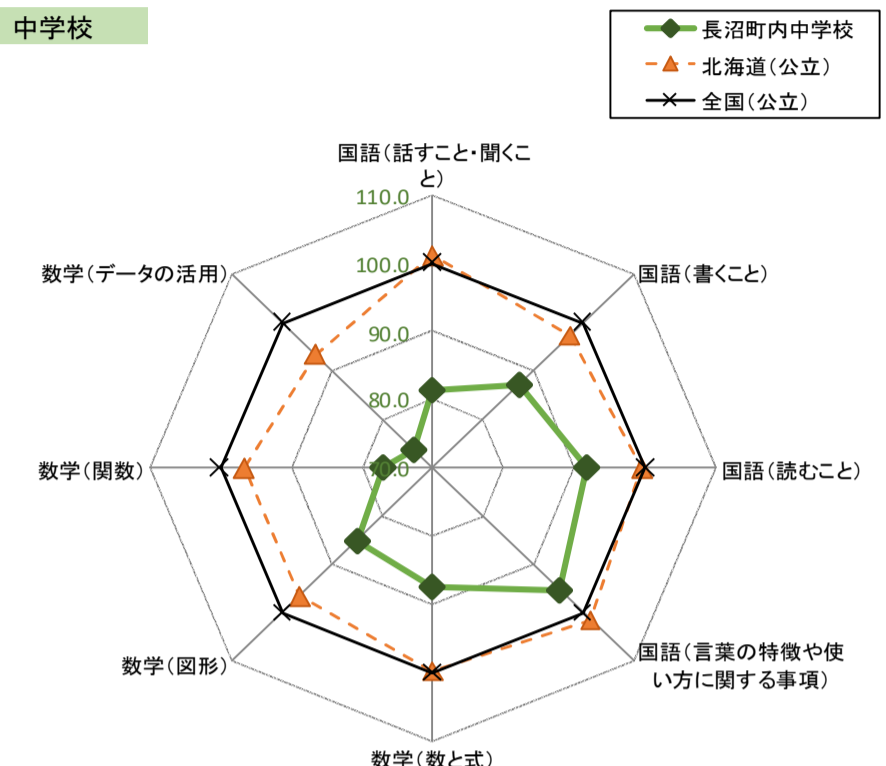
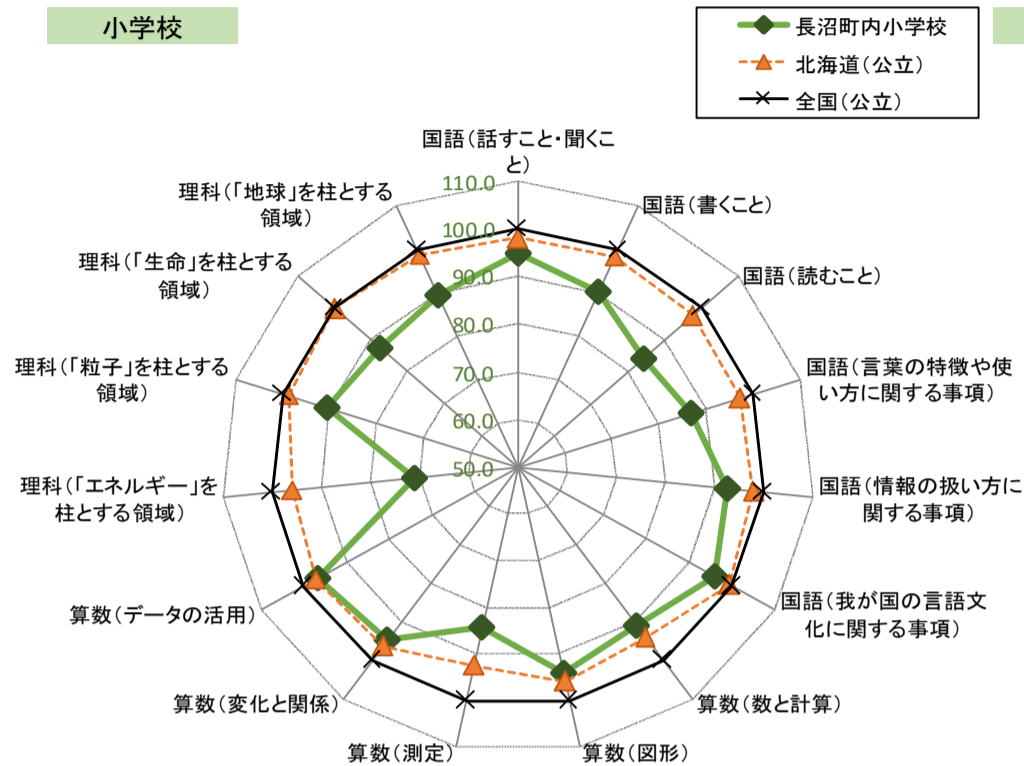
【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
 ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
長沼町	60	53	49	48	39	477
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

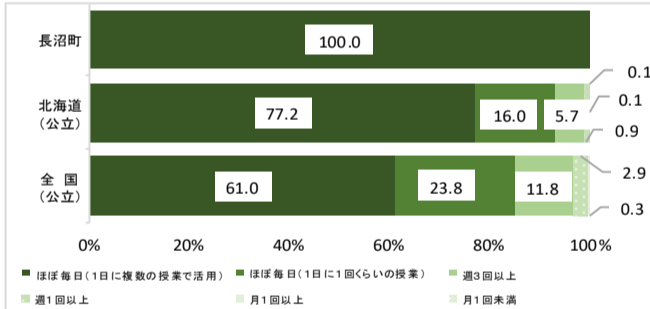


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

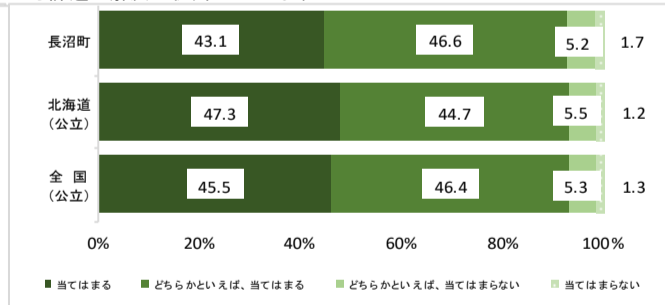
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



中学校

<生徒質問>

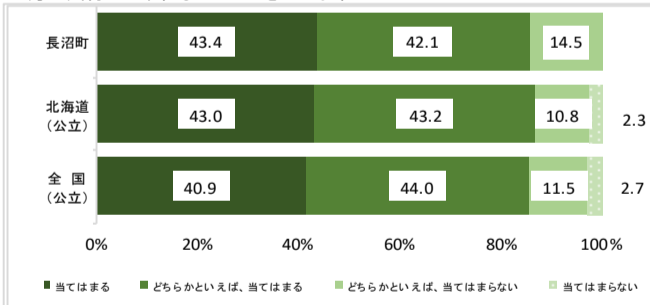
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



小学校

<児童質問>

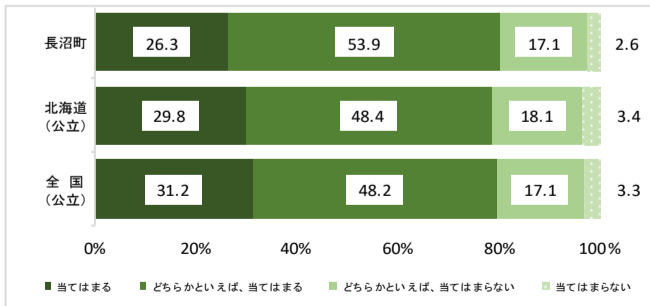
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



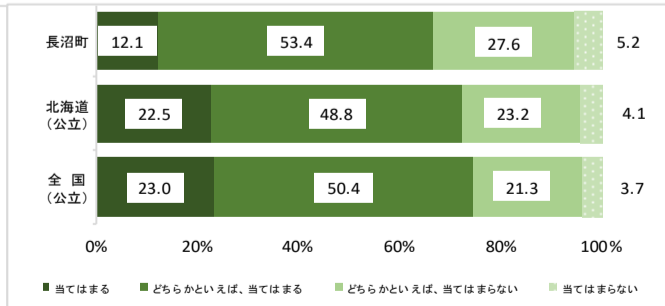
小学校

<児童生徒質問>

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



中学校



○ 調査結果の分析

・小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日、複数の授業で活用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

・中学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日、複数の授業で活用したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が、全国・全道とほぼ同程度になったと考えられる。

・小・中学校の平均正答率が全国・全道を下回っている状況は、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒の割合が全国・全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・デジタル学習基盤を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善の推進
- ・探究的な学習の過程を積極的に取り入れ、児童生徒が自己調整をしながら自ら学習を進めることができる指導の充実
- ・放課後等の学習サポートや家庭学習の支援など、学ぶ意欲を高め学習習慣を確立する取組の推進